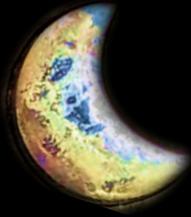




登録有形文化財「藤岡家住宅」の展示

令和四年七月一日(金)〜九月十七日(土)

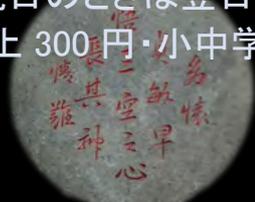
硯 (すずり) を見る



登録有形文化財「藤岡家住宅」管理人 NPO 法人うちの館(やかた)
〒637-0016 奈良県五條市近内町 526 電話・FAX 0747(22)4013
info@uchinono-yakata.com <http://www.uchinono-yakata.com>

月曜休館・月曜が祝日のときは翌日休館。9時～16時。

高校生以上 300円・小中学生 200円



硯(すずり)を見る

令和4年7月1日(金)～9月17日(土)

登録有形文化財「藤岡家住宅」管理法人 NPO 法人うちのの館

〒637～0016 五條市近内 526 番地 電話と fax 0747(22)4013

info@uchinono-yakata.com <http://www.uchinono-yakata.com>

藤岡家所蔵の硯(20面を予定)と墨、篆刻家の印影を解説した『垂岱印譜』(安永7年/1778年7月)を展示します。文人たちの心を映した奥深い硯の文化の美しさに接していただければ幸いです。



①「花兔蒔絵料紙文庫」(江戸時代)に収められた硯。10.8×8.3cm 硯箱の蓋裏には狩野探幽守信の下絵とされる金工細工の掛軸の意匠が施されている。書付に「大和国芝村の殿様がご所持のお品」と書かれ、寛文10年(1670年)大和国戒重藩2代藩主織田長定所蔵の品とある。



②和硯 赤間硯(江戸時代) 21.4×8×3cm 裏面に「赤間関 往」と刻まれる。赤間硯は、江戸時代には山口県下関付近の赤間関で採られ、長州藩の特産品とされた。採石の山は、藩主の命がなければ入山も許可されない御止山で、採石も硯職人自身が行い火薬を用いて採石する技術が必要であった。赤間硯は毛利氏参勤交代の際の贈り物となり、小豆色で青色の混じるものが最上。当資料は特に底面まで貫通する多数の「眼」と呼ばれる石紋が含まれる。縦長の特徴的な形状のため、特別の硯箱が作られ、硯の「丘」部分のへこみは、江戸時代の当主大坂屋長兵衛に愛用されたことを物語っている。裏面の「往」の文字は、硯職人の名か。



③蜘蛛硯 15×7.5×2.8cm 「眼」が2箇所に現れ、「眼」を生かして蜘蛛が糸を垂らす図を描き出している。紫色が褪色したような特徴をもつ端溪石の古硯。自然界の生物を描いて「草木國土悉皆成佛」(全ての生き物が成仏するという世界観)を硯に表すことが好まれたが、文人の理想の精神世界を硯に表現した。

④「龍擁雲浪浪硯」17.8×12.5×1.7cm 硯蓋17×12.5×0.7cm 龍が雲を擁え浪を漉う図が彫刻された硯。硯には硯名が記され、硯裏面(写真右)に「讚」が彫られている。「擁雲間彩色吐胸中錦繡含九天雲雨垂 百世文章」(古硯)



⑤「集葉研」
12×8×2cm

重なる芭蕉の葉を表す。七色の色彩の変化を楽しむことができるという。



⑥「杉目斑灰蒼色硯」30.6×20.4×4cm

⑦「唐硯彫 羅紋硯」
20×13×3cm

羅紋は羅文とも表され中国江西省懷玉山脈の支脈花方龍山一帯で採掘される硯。



⑧「光琳蒔絵硯」

27.6×14.7×2cm 鹿と松を浮き彫りした硯。神代杉で作られた文台と共に製作された。文台裏には金箔の塗布が残る。



⑨「集字聖教序 桃河緑石硯」16.6(径)×3.6cm

硯蓋16.6(径)×1.5cm 緑石硯。硯蓋に王羲之の筆を集めて玄奘三蔵を讚えた「集字聖教序」より「幼懷貞敏。早悟三空之心。長其神情難」の文字が彫られているが、1部分が「聖教序」とは異なる。

